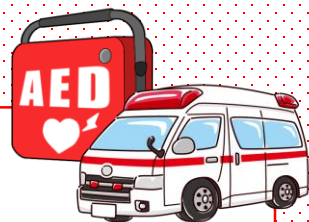


# AED講習会



病気や事故などで心停止になった人を救うには、救急車が到着するまでの間に、そばに居合わせた人が速やかに心肺蘇生などの応急手当を行う必要があります。

そのような場面において、速やかに救助行動をとることができるよう、各事業所の職制を中心とした114名に対し、「AEDの使用法および心肺蘇生法」について地元消防署の救命担当およびAEDトレーナーより講習を行っていただきました。

## 《救命の連鎖》



救命の連鎖を途切れることなく行うことで、傷病者の命を救い、社会復帰へと導きます。恐れることなく、勇気をもって応急手当・救命処置を行いましょ。

(講習会の様子)



傷病者を発見したら、肩をたたきながら **大きな声で呼びかけ**を行います。

→ 反応がない場合は、**119番通報とAEDの手配**をします。(周囲の人に協力してもらいましょう)

呼吸の確認をします。

(呼吸していない場合)  
**胸骨圧迫を開始**します。

強く：胸が5cm沈むまで  
速く：1分間に約100回



AEDが到着したら、

**AEDの電源を入れ、音声指示に従い**ショックを与えます。

→ 音声指示に従い、胸骨圧迫を再開します。

周囲の人と協力し継続して胸骨圧迫を行いましょ。



救急車が到着するまで、引き続き胸骨圧迫を行います。

## 心肺蘇生のポイント

- 傷病者を発見したら、肩をたたいたり軽くゆすりながら、大きな声で呼びかけます。  
→ **反応がない時は、すぐに助けを呼んでください。**  
(119番通報、AED装置の手配)
- 呼吸をしているか確認します。  
口元や胸、腹部を約10秒間観察する。  
→ **普段通りの呼吸が無い場合は胸骨圧迫を開始してください。「強く、速く、絶え間なく」**  
(胸が5cm沈むまで、1分間に100~120回)
- AEDが到着したら、ただちに電源を入れ音声指示に従って処置を行います。  
→ **ショックを与えたのち、速やかに胸骨圧迫を再開してください。**  
(胸骨圧迫の絶え間なく、中断は最小限に。周囲の人と交代するなど協力して行ってください。)

## —— 感染予防 ——

血液・体液は感染する危険性があると考え、直接触れないように対応を行ってください。

傷病者の口元に、布をあてることで飛沫感染も予防することができます。

